

第三號



×

i 33-2

醫  
範  
新  
說

藥物學部

櫻南社

富士川文庫

899

Kitasato Memorial Medical Library

F 3  
イ-104

490.5  
Th-2  
3

No. 2086  
18 / 35-2

緒言

木孝義

我國近世医学一變而漢ヲ去テ洋ニ就リ是  
ニ於テカ西洋諸家ノ新著陸續舶輸スルモノ枚擧ス  
ニ遑ラス且遠ク海外ノ教師ヲ延キ其學述ヲ親炙研究ス  
豈二兩明ノ隅に止スヤ然ト雖モ其地僻遠或ハ都下ニアト  
モ事業ヲ端者又貧困ニシテ學費ニ乏キ者比皆遺憾ナ  
キト云ハス因テ今西洋現在諸大家ノ說ヲ纂輯譯述シ  
最モ簡明切當ノモノヲ采リ之ニ加ヒ三皇田支那ノ說ヲ以



テ凡リ実学ニ裨益アルモノ奉テ遺スルナシ然ラハ則チ僻邑  
大都宇ニ志ス者一タモ其書ヲ繕カハ殆ト遺憾ナカルヘシ  
矢ツサホ創学ヨリ始メ訓點ヲ加ヘ天竺ニテ世ニ向フ諸  
学科ノ如ク追次印刷スヘシ其書富ニ医家ニ便ナルモ  
ニ非ス藥師ヲ業トスルモノモ讀シテ有益歟ナカラズ若  
シ校正錯誤アル讀者請フコトヲ訂正セシトテ又奉  
櫻南社長識

医範新說第三號

藥物學部

以下良莖製劑ヲ示ス

(一) 莖 根 葉

石他ノ麻醉藥ニ伍シテ鎮

痛或ハ鎮痙ノ莖湯劑トシ

テ用ユルアル氏患部ノ

皮膚疎豁或ハ剥脫ノ候ナ

キ者ハ麻醉ノ効分ヲ吸收

セス故ニ蒸漏劑ニ配スル  
者ハ唯蒸氣ノ溫熱ニ乘シ  
通徹シテ僅ニ効ヲナスニ  
過ス  
用量根ハ一回ニ四分氏ノ  
一乃至三氏ヲ量トス一日  
ニ三回ヲ与フ  
葉ハ半氏乃至五氏ヲ一度

ノ量トス一日ニ三回ヲ与  
フ

〔二〕莨菪越幾斯方

莨菪 二十分

石新鮮ノ花莖葉

花候ノ初ニ採取ス

共

ニ量リ水一分ヲ澆キ石臼

ニテ搗爛シ絞リ汁ヲ取リ

又水三分ヲ其滓渣ニ灌キ



搾リヌ汁ヲ取り前後ノ二  
液ヲ合セテ文火ニ上セ八  
十度 摂氏ノ熱ニ至ルヲ待  
テコレヲ濾過シ再ニ棄セ  
重湯鍋中ニ熬テ全量ノ十  
二分ノ一トナルニ至ルヲ待  
テ酒精二分ヲ加一テ放置  
スルヲ二十四時ノ間ニシ

テ後ニ頻ニ攪拌シ布ヲ以  
テ漉放シ更ニ稀酒精一分  
ヲソノ滓渣ニ加一テ漉出  
シ液ヲ取りヌコレヲ合セ  
テ隔火ニ煎稠シ粘帖ナラ  
シメテ膏ノ如クス色暗褐  
ヨク水ニ浴陶ス  
用量ハ一度ノ量六分氏ノ

一乃至一匁又一匁半ヲ極  
量トス上ヲ記ス一日二三  
回ヲ典フ  
三 莨菪丁幾方  
莨菪 五匁 酒精 六匁  
右新鮮ノ花莖葉共ニ搗爛  
シ酒精ニ浸シ曝ス法常ノ  
如シ

用量ハ一度ノ量三滴乃至  
十滴十六滴ヲ極量トス上  
ヲ記ス一日二三回ヲ典フ  
四 硫酸アトロヒ子  
右根ヲ以テ製スル苦果ノ  
鹽ナリ水及ニ酒精ニ溶化  
ス

五 單純アトロヒ子



右硫酸ト抱合セサル者ニ  
シテ蒸餾ニ通常攪ク所ノ  
品ナリ  
用量ハ一回ニ二百分ハ一  
一乃至百分ハ一又六十  
分ハ一一日三回與フ  
アトロヒ子ヲ九散<sup>ミ</sup>キス  
ツラ<sup>レ</sup>混合劑其他種々ノ劑

トナス其効用ハ根葉及ヒ  
キスニ同シト虽ヒ性力ニ  
至テハ猛烈ナリ故ニ前量  
ヲ主用ス

六 點眼水方

アトロヒ子一<sup>ハ</sup>分ハ水半<sup>ニ</sup>多<sup>リ</sup>或  
右溶化ス  
一<sup>ハ</sup>分ハ重量六毛強<sup>テリ</sup>半<sup>リ</sup>多<sup>リ</sup>ハ四  
分<sup>ナリ</sup>ニ<sup>リ</sup>ハニ<sup>分</sup>ナリ  
角膜及ヒ虹彩炎ニ用ユフ

レヲ驚テ全身ニ感動スル  
コトアリ其徴候ハ眩暈ヲ  
発ス茲ニ於テ止ルコトヲ  
六度トス然リト虽モ症劇烈  
ナルモ入ハ止ムルコト早  
ニ過ルコト勿シ次劑ヲ製  
ルニハ精淳ノ品ヲ選ヘン  
若シ過劑ノ酸ヲ混ルトキ

附録

ハ結膜ヲ刺戟スル憂アリ

皇国名

オホホシルグサヲ大キ

グサホメキクサヲ大キ

ツ桔梗果ハ赤トコロ

支那名

狼薈 虎茄



葇荑ハ深山幽谷ノ宿根ヨ  
リ生シ早春嫩芽ヲ生ス色  
紫黑長スルニ及テ色淡緑  
茎圓ク高廿一二尺葉互ニ  
生ス形ニ商陸葉ニ似テ小  
ク又タ一種長葉ノ者アリ  
稍葉ノ間ニ梗ヲ出シ花下  
垂垂テ陶ク其形本ハ筒ニ

シテ先ハ五ツニ尖リ一種  
圓花アリ長サ一寸余色ハ  
黃褐ニシテ紫ヲ帶フ一種  
色ハ黃ニシテ緑ヲ帶ルモ  
ノアリ共ニ蒂ハ桔梗花ハ  
蒂ハ如シ花謝テ蒂脱セス  
後ニ実ヲ結フ肉ニシテ棟  
子ニ似テ大ナリ色ハ淡緑

中ニ褐色ハ細子多シ初夏  
ニ至テ実熟シ苗枯ル根ハ  
根ハ山草辭ハ如ク地ニ入  
コト浅クシテ横行ス故ハ  
品ハ麻醉質ナルヲ知ラ  
ス根葉ヲ誤テ食スルハ  
狂乱奔走ス故ニハシリト  
コト其名アリ世人烟草ヲ

誤テ莨菪トナスハ非ナリ

菲沃斯ハ莨菪トナスハ非ナリ

葉モニヨリヤカスハ

ケルハ

効分菲沃矢重密涅

○菲沃斯ハ莨菪ニ類似ハ品

ニシテ知覺神全ハ末梢ヲ



麻酔痺セシムル効力ハ  
○ 菅ニ彷彿タリト云  
部ニ神至ラ麻痺シ搏動ヲ  
減却シ体温ヲ降下ルコト  
ハ 莨菪ト異ナリ 莨菪ハ初  
心動ヲ沉遲ナラシメテ後  
ニ亢進スルヨスハ亢進セ  
ス中量ヲ与テ睡熟ストイ

ヘトモ夢魂着セス回後心  
大胸舒泰ナラス故ニ催睡ノ  
効力ハ阿片ニ及ハサルヲ  
遠シ

健体作用  
量 以テ此量ヲ与フルハ瞑

眩ノ候更ニナシ

中量 至ニ此乃初起咽喉乾燥ヲ

奄ニ侵次頭痛掉暈ニ聲音  
嘶嘎渾身倦怠肌肉瘦削行  
步愜々ニ体温尤モ退下大  
量其退下ハ寒温差ヲ待ス午  
掌ヲ以テストモ知ルトヲ  
得ヘシ  
大量ニスハ乃至五  
ルトキハ前條ノ諸症ヨリ

一層劇ク体温減過シテ厥  
冷シ脈度減テ四五十搏ト  
ナリマハチヤノトセラ発  
スル者アリ聲音嘶嘎甚ク  
或ハ矢音シテ嘔ハルニ至  
ル知覺神經甚ク麻痺シ其  
形久坐倚著テ機能ヲ壓住  
テ舉コト能サル如シ尋テ



睡ヲ催シ睡裏安カラス怪  
異ノ夢ヲシ或ハハルチ至  
チラ<sup>ル</sup>起シ醒後神思  
爽朗<sup>ス</sup>ラ身体困倦ス至  
中毒量<sup>至六ニハ</sup>ル<sup>ル</sup>毒<sup>ニ</sup>ア<sup>ラ</sup>  
此量ヲ與フルトキハ心臓  
ノ機能耗散シ搏度大ニ減  
シ<sup>シ</sup>痙攣<sup>シ</sup>掣<sup>シ</sup>縦<sup>シ</sup>神志<sup>シ</sup>昌<sup>シ</sup>昧<sup>シ</sup>前

條ノ諸症悉ク発シ終ニ昏  
睡シテ斃ル<sup>ル</sup>  
医事効用<sup>病ヲ</sup>人<sup>ニ</sup>用<sup>ユル</sup>  
菲沃斯<sup>ハ</sup>効用ハ前條ニ述  
ルカ如ク葭茗トス<sup>コシ</sup>ク  
異リアレトモ概畧同シト  
ス又一高手ノ説ニ菲沃斯  
葉ハ拈約筋ハ麻痺ヲ起ス

コト莫若ノ如ク甚カラス  
且ツ精神ヲ鼓動スルカモ  
亦タ弱シ然レトモ催眠ノ  
効ハ反テ強シ又一説ニ菲  
沃斯葉ト阿片ト相異ナル  
所以ハ大便結秘ヲナサ  
ルト催眠ノ効驗確實ナラ  
サルト瞳孔ノ著ク散大ス

三 此等ヲ以テ區分ヲ辨明ス

ヘシ

一 知覺疾敏ノ症ニ於テハ莫

若ト効ヲ同フス知覺ノ末

二 稍ヲ麻痺セシムルノ効ヲ

主的トシ與フレトモ莫若

ノ確タル効力ニハ及ス咳

嗽ヲ豁除スル効ニ至テハ



菰苺ニ同シ然レモ熟候  
 ル者ニハ用ユルコトヲ禁  
 ス

三 峻下劑ヲ與ルトキ腸管ノ

痛ヲ防ク爲ニ与フ殊ニコ  
ロシントヲ與ルトキニ伍  
用テ尤モ宜シ又諸痛ヲ止  
ムルヲ主ル大便結硬ヲナ  
サ、ルヲ以テ投與ニ辨大  
リ  
以下菲茨斯製劑ヲ示ス

〔一〕菲沃斯葉 眞雙晴毛氣伏  
右花ノ將ニ開カントスル  
時ニ方リテ葉ヲ摘採シテ  
陰乾シ貯フ 大匙匙匙  
〔二〕菲沃斯子 宜疾入齋齋毛止  
右外用ニ供スル川洋他  
使用スルナシ  
〔三〕菲沃斯越幾斯方 子開會

右菲沃矢垂母斯ノ花候ノ  
初ニ方リ其葉及ニ嫩茎ヲ  
取テ製ス其法ハ苳茗越幾  
斯ニ同色茶褐ニシテ微緑  
ヲ帶ヒ水ニ溶和スルハ渾  
濁ス  
用量ハ一回六分氏ノ一乃  
至三氏一日量トス九散ト



ナニテ與石量

一説ニ増量シテ一日ニ

又ニハ三分三厘ヲ二回

ニ與フル法アリ将スル軍

常套ニ非サルナラニ

四 菲沃斯軟膏方

菲沃斯エキス二分單膏五分

石ニ呆捺化ス

五 菲沃斯硬膏方

菲沃斯末二分帝列並油阿

列襪油各一分黃蠟四分

石ニ呆煉烱シ火ヲ離シヤ

冷ヲ待テ前末ヲ下シ攪

過ス

六 菲沃斯油浸方

菲沃斯 酒精 二分 阿列襪油

六 右葉ニ酒精ヲ流キ其器ヲ  
封靱セ勒シ教時間放チ置  
キ更ニ阿列襪油ヲ加ヘテ  
浸漬シ重湯ニ乗セ煎シ時  
々攪渾シ酒精ノ性臭飛散  
シ盡盡ヲ度トナシ火ヲ住  
メ教時ノ後チ矢ヲ搾リ滓

ヲ去リソノ液ヲ貯フ

七 非沃斯矢匪密涅

右菲沃斯ノ元質ニシテ製  
法未タ定確セズ故ニ用ル  
コト克ス將來精製ノ法ヲ  
究ルノ日アラハ必ス瞳孔  
ヲ最大セシムル其効驗ハ  
アトロヒ子ニ優ルヘシ



<p>         按 = 四ヨスハ          皇国支那種          名倍ス夕詩ナ          元ス取銀八          環軌也朝テ          秋時成次朝遊          下更京所科          儀蘇蒙成到天          國清以象          露ヲ象知          兼用時          寺龍洞          復酒積          貞仁          吳飛          據       </p>	<p>         ナ          非          則          藏          夫          國          密          聖          心          火          ヲ          住          乍          徒          飛          又          後          劇          天          限          推          リ          宰       </p>
---	--

將ニヒヨスハ皇國支那  
名知ニタ詳ナラス  
下運子然知悉不  
商清海支那子  
古知南集下  
正北知集大國  
也走